（抜粋仮訳）

2010 年 2 月 24 日下院軍事委員会及び 2 月 25 日上院軍事委員会
海兵隊総司令官ジェームズ・コンウェイ大将陳述書
「2010 年米国海兵隊態勢について」

（9 ページ）

Ⅲ. 即応態勢

2. 装備の即応態勢

航空機の即応態勢　海外有事に使用されているすべての海兵隊航空機は、計画使用率を超え、航空機によっては、設計された航空機の耐用年数を全うするための使用率の 3 倍のペースで運用されている。（表２参照）その結果、補修・再生(rework)のスケジュールが追いつかず、予定よりも早い退役を余儀なくされることになる。

＊ 次項で陳述する航空機最新化への連邦議会の支援は不可欠である。

＊ 伝統ある海兵隊航空機のほとんどが、その任務年数を終えようとしており、生産ラインも閉鎖されている。

表２．2009 年度米国海兵隊航空機使用率
海外有事運用(OCO)

航空機	平均年数（年）	計画使用率（時間／月）	OCO 率（時間／月）	OCO 耐用年数使用率
AH-1W	19	19.5	32.7	1.7×
UH-1N	35	21.7	30.0	1.4×
CH-46E	41	13.6	31.1	2.3×
CH-53D	40	23.8	50.3	2.1×
CH-53E	21	19.2	33.6	1.8×
MV-22B	3	20.9	29.4	1.4×
AV-8B	13	20.9	24.1	1.2×
F/A-18A	23	25.5	72.5	2.9×
F/A-18C	16	23.9	65.5	2.7×
EA-6B	27	26.4	66.0	2.5×

（13 ページ）

Ⅳ．海兵空地機動軍(MAGTF)の近代化

海兵航空

海兵隊のパイロットは、海軍飛行士である。米国海軍の艦船、あるいは遠征先の飛行場から飛行し、海兵隊の地上部隊を支援する。我々は、現在、これまで経験したことのない近代化の真っ直中にいる。2020 年までに我々の海兵航空は

＊ 半分以上の航空機が新型に入れ替わる
＊ 5 個の飛行中隊と約 100 機の航空機が追加される
＊ MV-22 オスプレイの実戦配備、UH-1Y ヒューイ多用ヘリコプターの更新が完了する
＊ すべての空中給油機が KC-130J へ更新される
＊ AH-1Z コブラヘリコプターの更新機と F-35B が実戦配備される
＊ 初めての無人機が導入、実戦配備される
＊ CH-53 重ヘリの新型が導入される

（１８ｐ）

Ⅴ. 展望(VISION)

太平洋海兵隊再編計画

米日両政府は、日本、グアム、ハワイで長期駐留を目指す、太平洋地域での海兵隊再編に投資することに合意した。同再編計画の実施に不可欠な要件は以下である。

・ 運用及び安全の基準を満たす海兵隊普天間航空基地代替施設の日本政府の建設
・ 太平洋司令部指揮官の作戦上の要件を支援する、適切な海兵隊兵力の配置
・ 海兵隊兵士を訓練エリアやパートナー諸国へ運搬するための適切で可能な空輸、海上輸送の確保
・ 海兵隊の即応能力を維持するため、また、同地域の米国のパートナー諸国との安全保障協力体制を支援するために、適切な訓練エリア及び射撃訓練場をグアムと北マリアナ諸島に確保
・ 永続し、持続可能な「働く場所で生活できる」”live where you work”基地をグアムに建設し、運用上の効率を最大限にし、民間地からの浸食(encroachment)を最小限にする。将来の展開に適応させ、他のどの基地にも匹敵する生活の質(QOL)を提供
・ 米日両政府からの持続的な政治及び財政支援

きめ細かな(refined)計画と国防総省内の意思疎通のプロセスが、これらの要件を調整

し連携させる我々の取り組みにきわめて大きな貢献となる。適切に計画・実行されれば、この米軍再編は、太平洋地域での安全及び安定における米国の責務を支持するための、前方展開の海兵隊戦闘即応能力を提供し、将来にわたる問題解決の手だてとなる。